

込みをせずに、まず編集担当にお声を掛けて下さい。

更に記事として会員の紹介を始めてみませんか？
記事は会員が書くのです。
高齢化から体力的限界で会員は減ります、しかし経験は残ります。

連絡会ニュース創刊50号によせて JK1PIK 村上 武

ご存知の方も多いと思いますが連絡会ニュースは97年7月にJA1BWA高橋さんの編集で創刊前号が発刊され、第1号～第4号および第7号までBWAさんが引き続き編集を担当され、まさに連絡会ニュースの生みの親であられます。ここで連絡会ニュースの骨格ができたと言えると思います。

私JK1PIKは98年9月発行の第5号から引継ぎをはじめ、第8号から編集業務が移管されました。次の第9号からはJS1IWA吉野さんが、担当として加わり2局体制で06年3月第35号まで発行しました。その後はIWAさんに編集をお願いして、現在に至っています。

この間、ページ設定を1ページ2列に変更したり又戻したり表題欄を修正したり試行錯誤を繰り返しましたが、これはあくまでも皆様が読みやすく、なお且つ必要にして充分な情報を記載する目的のためでした。

最初の写真の掲載は01年6月の第16号で、連絡会創立25周年記念総会で市長からの感謝状を第3代(第5代)会長JA1QC山本さんが受領しているシーンでした。今でこそ写真など当たり前ですが当時はPCの扱いも不慣れで写真が掲載出来て感激でした。こんなよちよち歩きの状態を経て、今日

災害に備える連絡会本来の趣旨を継続させるには行政は事務局として単なる印刷・配布協力のみならず、協力体制につき意見交換の場としても活用される様強く希望するものです。

まで継続出来たことは会員の皆様の厚いご支援と、事務局防災課のご協力のたまものと厚くお礼申し上げます。また、JA1QC山本会長は発行前各号の原稿に目を通していただき、貴重なご指摘を頂戴しました。IWAさんはお勤めの傍らよく頑張ってくださいました。

今から考えますとニュースの記事は連絡会主要行事の船橋市総合防災訓練、総会など、その他の記事はオンエアミーティング、ネットワーク構築テスト、移動運用、技術講習会などで、いささかマンネリ気味だったと思われます。これをカバーされたのがBWAさんの連載記事“ハムの運用講座”で第31号から第36号までの4回連続で、内容的にも素晴らしいものでした。この他に記憶に残る記事は第21号のJN1EYP局の遭難救助通報の体験レポート、第22号のJA1CVG局のヒマラヤ遭難救助の生々しいレポートでした。私が編集を離れてすでに15号が刊行されています。最近ではホームページなどでも情報も入手出来ますが、テレビ、インターネットの時代でも新聞がすたれないのはやはり手に取ってじっくり見られるメリットだと考えます。

連絡会ニュースの今後共のご発展を祈念してご挨拶に代えます。

「船橋非常通信連絡会ニュース創刊のころ」 JA1BWA 高橋 敏夫

平成XX年8月の総合防災訓練反省会での、最も多くの意見は、メイン会場とサブ会場とのQSOが出来なかった、あるいはメリットが悪かったというものでした。そして、この意見は反省会で毎年のように繰り返されておりました。そこで、JJ1YNAではメンバーの皆さんの無線設備は基より、運用技術含めた会員全体のアクティビティを上げることとな

りました。その施策の一つが「船橋非常通信連絡会ニュース」でした。

その創刊号は、1997年9月5日に発行されました。このころの会員数は73名でした。しかし、そのアクティビティは大変低く従来からの常用周波数の432.76や、145.76には会員の声は皆無と言ってよいほど聞こえることはありませんでした。

1997年当時の会長は JG1EYO 荒井清衛さんで、私が副会長でした。それまでの非常通信連絡会の体制は、各イベントが有る毎に、そのイベントに対応できる人に幹事を会長が依頼されていました。

したがって会長お一人がご苦勞されて孤軍奮闘の様相でした。そこで、私は会長と相談の上、担当役員分担の組織体制を作ったのです。つまり、渉外担

当、OAM 担当、NW 構築担当（東、南、西、北、中央）、イベント担当（ジョイントショピング、花火大会、総合防災訓練、防災フェア）、訓練講習担当、総務担当（総会、連絡会ニュース、新入会員リエーション、他）でした。そして、私は同時に次の各事業を企画実施し、JJ1YNA の活性化を計ったのです。

- (1) メンバーの現有无線設備調査
- (2) “広報ふなばし” への会員募集掲載
- (3) 船橋市役所のホームページへ非常通信連絡会の紹介記事掲載
- (4) 新入会員の募集DM作成（市内 400 局住所リストと案内文作成）
（このとき 62 局の新入会員が加入。新入会員説明会の企画実施。）
- (5) OAM の企画実施
- (6) NW 構築テストの企画実施
- (7) 非常通信連絡会ニュースの発刊
- (8) 市内移動運用訓練の正式行事化と運用地の探索
- (9) 技術講習会の正式行事化

その他、ベストや腕章の作成、JJ1YNA、FARE-Net 規約や委嘱基準の改定なども行いました。これらの新企画の中で最も重要視されたのは(6) のネットワーク構築テストでした。それは有事災害時における会の活動に最も役に立つであろうと考えられたからです。

ネットワーク構築テストは、当初は商用電源を使用しないで、各地区ごとに行いました。そして、平成 10 年 6 月にはコンテスト形式で実施し、マンネリ化打破のため荒井会長もたいへん乗り気で、初回の優勝局に対して会長ご自身からの賞品が授与されました。使用周波数は、会員の現有无線設備調査から 144 FM 機のための所有局は僅か数局でしたので、430FM と 1200FM で実施しました。勿論ほとんどの参加局は 430 でした。そして、回を重ねる毎に参加局が固定化して、マンネリ状態となってしまったことは残念なことでした。

連絡会ニュースの創刊号には、荒井会長の巻頭言を頂き掲載しております。私は、創刊前号から 4 号までの 5 回を編集発行し、第 5 号から第 8 号まで

は JK1PIK 村上さんをサポートしながら交互に編集発行しました。第 4 号のワープロ作業は JA10QX 阿部さんのご協力がありました。第 9 号からは、JK1PIK 村上さんと JS1IWA 吉野さんのコンビで、編集発行されることとなりました。

私は、平成 11 年 3 月に成人病によるドクターストップで、止む無く非常通信連絡会を一時休会いたしました。上記各施策の状況が気になり、ウォッチングは続けておりました。残念ながら施策の殆んどが、現在マンネリ化しているように思います。結果的に、私が企画実施しました担当役員分担の組織体制は、効果があまり無かったように思います。その要因は種々あると思いますが、全体的にはアマチュア無線が本当に好きな人が少ない、そしてアクティビティの低いグループだと言えそうです。

したがって、グループ全体の現状では、担当役員分担の組織ではなく、かつて元会長の JG1EYO 荒井さんが採られました、各イベントが有る毎に、そのイベントに対応できる人に幹事を会長が依頼される方式が、ベターであろうと思っております。

平成21年度 船橋市総合防災訓練 参加報告



今年の総合防災訓練は、衆議院議員総選挙の投票日と重なりましたので、通常の総合防災訓練は中止になりました。

今回は非常通信連絡会としては、市長視察会場となった小室小学校会場でのアマチュア無線の公開運用を行いました。

この日は朝から台風11号の影響で、時折の突風や小雨が降るなか午前7時過ぎに参加局が集合して、アンテナの設置をして公開運用の準備をしました。

J A 1 O Q Xの無線車をテントの後方に停めて、阪神淡路のJ A R Lのビデオを流して

訓練参加者に公開しました。無線局の運用は、430MHzのFMでは非常通信連絡会のオン、エア・ミーティングのネットコントロールを行い、市内の局とQSOをしました。

市外からは、J A 1 R L局からの応答があり、船橋の総合防災訓練をPRしました。7MHzのCW運用では7m高のダイポールで京都や奈良、宮城各県の局とQSOが出来ました。

小室小学校の会場では関係機関の展示ブースが多数公開されて、会場では初期消火などの訓練が行われていて、市民の参加は407人と多数参加されていました。市長視察では非常通信連絡会のテントに顔を出されて、参加局との記念撮影をしました。



当日の参加局 (順不同)

J A 1 B W A J H 1 A P Y
 J A 1 X Q C J A 1 O Q X
 J M 1 M U A J G 1 D V Y
 7 N 4 W O U J H 1 M Q C、
 J A 6 A Z E J S 1 I W A
 J S 1 G X N J O 1 G L R

総合防災訓練に参加された各局、ご苦労様でした。

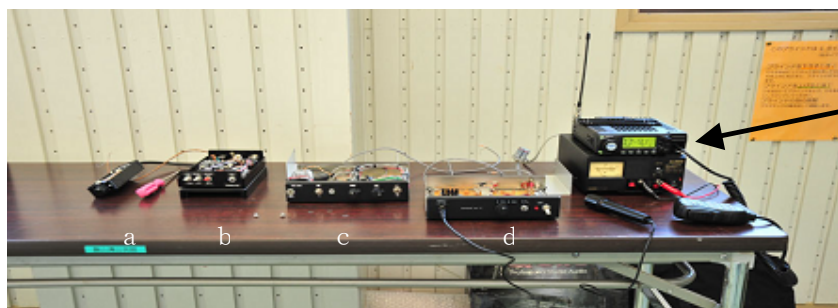
行事担当 J H 1 M Q C

第1回 技術講習会報告 (自作品発表会)

9月20日飯山満公民館で行われた自作品発表会の様子です。JJ1GRK 当局の製作したものと、JA1VRZ 鈴木さんが製作したバランス型・アンテナカップラと無線免許が出品していました。

参加者7名と少ない状況でしたが、後半は、雑談形式でVOIPとD-STARの解説をしました。

参加局 7L1TTH、JA1VRZ、JE1FTN、JS1IWA、JG1DVY、JS1GXN、JJ1GRK



設定に工夫をして
D-STAR、WIRES 両用にした
ID-800D



a) 138kHz 誘導無線受信用アンテナ JJ1GRK



b) 135kHz 帯 CW,PSK 送信機 出力 2W
フィルタに工夫があり、終段は準F級動作



c) 14MHz VXO 式 (50kHz 可変) JJ1GRK

14MHz VXO 式(400mW)

両方向回路 (双方向増幅器) 採用

S S B 互換 D S B (A9) トランシーバ

AF プロセッサ、AGC 付き、AM 検波抑圧型プロダク

ト検波採用

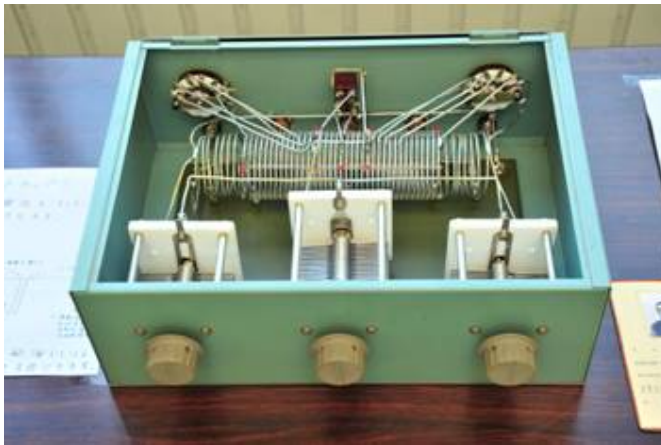


d) 3.5MHz 帯 VXO 式 (6kHz 可変)

3.5MHz VXO 式

100mW AM送信機

前段変調併用、終段直列変調



バランス型・アンテナカップラ JA1VRZ

今から30年前に製作したものです。目的は世界中で航海している日本のマグロ漁船とか貨物船のマリンタイムモービルと交信するために 製作しました。短波帯の電波伝搬は季節や時間により変化します。適切な周波数を使用すると良好に交信できます。一本のワイヤーアンテナで2MHz～30MHzの周波数を運用するため アンテナカップラを使用して送信機とのマッチングをさせます。設計では800W程度まで使えますが10Wでも太平洋全域とインド洋、アフリカ南端まで飛んでいます。大西洋と南極はあまり交信できません。太陽の活動は約10年単位で変化しているので電離層が影響を受けてコンデションも変化します。



無線免許

仕事はコンピュータ、光ファイバー、無線関連等と色々やらされました。無線設備の操作は当然ですが無線免許が必要なので始めに マイクロ波で使う多重免許をとりました。短波送信所の監視業務 では数10KWの送信機があるので2年間の受験勉強をして 第一級無線技術士になりました。これで全ての無線設備の操作をしても良いことになりました。無線手当でも毎月2万円もらえたので苦勞したかいがあります。



技術講習会担当 JJ1GRK

以下は、追加で行った講習資料です

技術講習会。情報企画

09年09月20日 JJ1GRK 高木

VOIPとは

接続先のIPアドレスをヘッダ部に持つ、音声データのことです。

インターネット上を音声信号として流れ、直接接続先に到達することができます。

ヘッダ (IPアドレスを持つ)	データ (音声信号のデジタルデータ)
-----------------	--------------------

こんなデジタルデータが連続的に作成され、インターネット経由で相手方に送られます。

VOIP無線のご紹介。

VoIP無線とはインターネット網を中継回線として無線通信を行うシステムです。

中継回線は「TCP/SIP (Transmission Control Protocol/Session Initiation Protocol)

で通信が行われています。通常はIP (Internet Protocol) を使用しているとされていますが、厳密にはTCPとIPは別物で、はがきで例をとると宛先(住所)がIP、実際に配達するのがTCPの役割です。

この点で、昔からのパケット通信とは違った、集中管理型接続プロトコルとなっています。

RF-Link局(Gateway)を介せばハンディ機1台でも日本国内はもとより世界中のアマチュア無線局と交信が出来ます。

1) WIRESとは、インターネットを利用したアマチュア無線の新しい通信システムです。

・特徴

・アナログの無線機を利用し、ノード局(ネットとの接続局)に接続

以後、無線系はアナログ、ノード局間はネットを使用して通信する

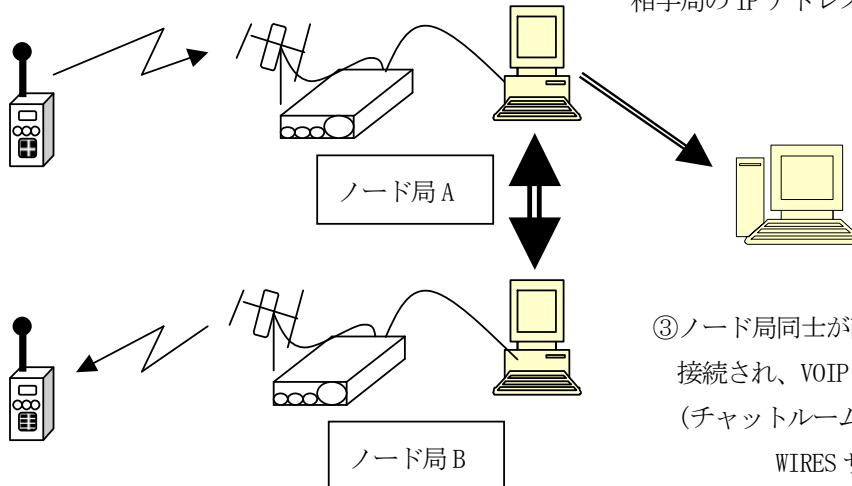
①無線でノード局へ向けて送信

DTMFで接続先を指定

②ノード局はネット経由で

WIRESサーバーに

相手局のIPアドレスを問い合わせ



③ノード局同士が直接ネットで

接続され、VOIP 音声をやりとり

(チャットルームを使用する場合は

WIRESサーバーへ接続)

④VOIP 音声が届いて電波に乗

る。受信した音声は逆ルートで最

初の送信者に戻る

⑤回線切断コマンドでノード局

同士のネット接続が解除される

- ・長所 ユーザーはDTMF が送信できれば利用できる。・アナログ音声なのでワッチが容易
- ・短所 関係無い混信波も中継してしまう。このため、トーンスケルチ併用のノード局も多い
局データ例 #5774 JG1LKT さん 430.82MHz で 107.2Hz
- ・現状の運用での注意点
送受信の切り替えをスケルチで検知しているため、約3秒間送信を待つことを奨励している。
このため、交信が微妙に間延びする。
- ・使用区分規定により、周波数は 430.70~431.00MHz これはD-STAR も同じ
ルームへの IN/OUT は英語でノード番号をアナウンス。微妙に聞きにくい
- ・コマンド一覧表
 - #abcdD または#0abcd abcd 番のノードやルームへ接続 (#0510D は ALL JA CQ)
 - #5555D または#05555 ルームに自動的に戻る機能を解除
 - #6666D または#06666 ノード局の接続状態の確認 (音声応答)
 - #7777D または#07777 ランダムにノード局に接続
 - #8888D または#08888 直前に接続したノード局に再接続
 - #9999D または#09999 または* ノード局間を切断

2) D-STAR (Digital Smart Technologies for Amateur Radio)

総合的にデジタル化されたアマチュア通信網のこと。

・特徴

AMBE (Advanced Multi-Band Excitation) で 2.4kbps の速度の符号にエンコードし、
3.6kbps の GMSK で変調して占有周波数帯幅 6kHz で送信する無線システム。
デジタル幹線網に載せ遠距離通信することが可能
128kbps もしくは音声と同時の 4.8kbps デジタルデータ通信がある。

・長所

DTMF ではなく、デジタルデータで接続をする。

レピーターを介さないシンプレックスでもデジタルモードで運用可能

レピーター局でレピーター運用可能。逆シフトの局あり (例、高根台)。

430MHz 帯で1エリアでは14局 (9/4 現在、アイコム HP による) ゲートウェイ兼
管理サーバー (SIP) が無くてもゲートウェイ間を接続可能。

(JARL 資料では存在しない ICOM 資料にはあり)

・短所

ユーザー登録をしないとゲートウェイ経由の通信が許されない。

すべて送信側でセットしないと通信ができない。操作性が悪く、意外と大問題。

最近の機種では、モニタ時のデータをそのまま逆に利用できるようになった

規約が ARIB-STD では無い独自規約であり、音声 CODEC について記述が無い

・現状の運用での注意点

DV (デジタルボイス) モードでは、アナログの混信がわからない。

モニターをアナログ設定にしておいたほうが良い。(リグの初期設定はデジタル)

第2回 移動運用報告

11月8日(日) 7:30~12:00 まで、第2回移動運用を船橋市中央卸売市場東200mの空き地で実施しました。

当日のお天気は朝方に雨が少し降りましたが、移動運用期間中は曇り空で、次第にお日様も出てきました。また、風もなく無線運用にとっては良い状況でした。

7MHz 144MHz 430MHz 途中から 24MHz 4バンドを運用し、その中で 7MHz 用地上高 3m、輻射角度の中心が 30~50度の国内 QSO 向きのループアンテナが国内の各エリアからパイルアップを浴び良く飛んでいました。

U、VHFは大昔に海の底だったような低地なので、船橋市内の局と交信しました。

途中から畑仕事の人が見学にきたので説田会長が非常通信連絡会の活動について親切に説明していました。



使用アンテナ 7MHz 用ループアンテナ 7MHz 24MHz ツエップアンテナ
144MHz 430MHz グランドプレーンアンテナ、ホイップアンテナ



オンエア、ミーティングの時間になると、JG1DVY 局が交信で手が離せずピンチヒッターとして JS1GXN がキー局となりオンエア、ミーティングを行いました。不慣れなキー局でしたが、途中から JA1BWA 高橋さんより丁寧なアドバイスを受けた効果もあり、後半は要領が掴めたようでした。

今回の移動運用で交信した局数は、7MHz SSB 11局、CW 1局、24MHz CW 1局、144MHz SSB 2局、430MHz FM 多数(オン、エアミーティング参加局含む)でした。

参加局左より JF1UBU JA1VRZ JG1DVY JA1UJZ
JS1IWA JA1XQC JA6AZE JS1GXN 写真外 JJ1TJD



移動運用担当 高間/JH1GEN 岩橋/JA1XQC 鈴木/JA1VRZ

CW講習会の実施状況

第6回：平成21年9月20日

13:00から飯山満公民館第一和室において実施しました。

CW練習に入る前に、CW略号およびシグナルレポートの出し方の復習を行いました。

また、電話の場合の変調度や音質のレポートの出し方や和文通話表の使い方の練習も行いました。

CWの練習は前回同様に、コールサインシャワー 後半はラバースタンプQSO例による送受信をペアを組んで実施しました。そして、習熟度の検証のため初めて受信テストを行いました。(暗号文100文字、40字/分)

参加局 7L1FYS, 7L1TTH, JG1DVY, JO1GLR, (JA1BWA)

第7回：平成21年10月18日

今回も前回に引き続き、アルファベット暗号文の受信テストを行いました。(100文字、40字/分) 結果、習熟度の個人差が大きく、月一回講習の難しさや、受講生の心構えにやや問題ありの感じがしております。CW講習会は月一回ですが、我々が日常的に使用している無線(U/VHF, HF)で送受信練習が出来ますので、遠慮なくお問合せください。

参加局：7L1TTH, JG1DVY, JO1GLR, (JA1BWA) ()は当日の担当講師
担当 JA1BWA

FARE-Net ロールコール 実施状況の報告

オンエアミーティング担当幹事

本年7月から再開しました、FARE-Net ロールコールの実施状況をご報告いたします。

【FARE-Net 会員局数】

80局 (11月1日現在)

【実施状況】

実施日	連絡会 参加局数	その他 参加局数	総計	連絡会 参加率
7月5日	15	0	15	18.75%
8月2日	18	0	18	22.50%
9月13日	17	0	17	21.25%
10月4日	17	1	18	20.00%
11月1日	15	1	16	17.28%
計	82	2	84	

【参加優秀局】(コールサイン順 担当幹事を除く)

5回(皆勤賞) JA1XQC 岩橋さん、JF1XPH 矢野さん、JH1MQC 高城さん、JJ1TJD 船木さん

4回 7N4DTR 武田さん、JA1BWA 高橋さん、JA6AZE 説田さん、JS1IWA 吉野さん

【FARE-Net 会員外で参加頂いた局】

「JJ1YNA 局」 JP1JKH (11/1)

「JR1YUX 局」 JM1KTS (10/4)

* 次回ロールコールは12月6日です。各局の参加をよろしく願いいたします。

* 2010年1月度のロールコールは予定では1月3日ですが、JARL ニューイヤーパーティーと重複しますので、1月10日に実施いたします。この日はオンエアミーティング 144MHz 帯運用予定日ですが、通常のロールコールと同様に 430MHz 帯で実施いたしますのでご注意ください。

オンエアミーティングで 144MHz 帯の運用を試行します

オンエアミーティングで 144MHz 帯の運用を試行いたします。会員皆様の参加・ご協力をお願いいたします。

【試行内容】

1. オンエアミーティングの運用周波数に、144MHz 帯を追加する
2. 毎週土日の運用のうち、日曜日の運用を 144MHz 帯でおこなう

【試行理由】

1. 船橋市総合防災訓練等の際、「各地区統制局」は本部局との間で 144MHz 帯を使用することになっていますが、その周波数を使用した日常訓練は実施されていません
「各地区統制局」は船橋市非常通信連絡会の会員全てが臨機応変にその任にあたれることが望ましく、会として 144MHz 帯を使用しての運用機会を創出することが必要と考えます
2. オンエアミーティングには、参加する各局が、所有する機材の機能点検をするという目的があります。会員各局に 144MHz 帯の機材の点検も勧めていきたいと考えます
3. 防災訓練等の際に展示ブースに訪問されるアマチュア無線家の話を伺うと、「144MHz 帯の機

材しか所持していない」というかたが比較的多いことがわかりました

4. 週2回同一周波数での開催を別周波数に変更しても、大きな問題はないと思われ

【試行方法】

- ・12月から、毎週第2・4日曜日のオンエアミーティングを144MHz帯でおこないます
但し1月の第2日曜日(1月10日)は、1月度のロールコールを変更して実施するため、144MHz帯でのオンエアミーティングはありません。(ロールコールは430MHz帯で実施します)
- ・試行しながら会員各局から意見をお伺いして、変更の可否を検討します。
- ・2010年2月上旬を目標に意見を取りまとめ、幹事会で継続(本施行)の可否を決定します

【運用周波数】

145.26 MHz and UP (バンドプランに基づく。但し145.50MHzを除く)

★430MHzでの運用周波数とは逆に、「上にあがって」いきますので、ご注意願います

【ご意見の送付先】

インターネットメール、郵送にてお送りください

・メール送信先 7L1TTH 島村宛 7l1tth@jarl.com

・郵送先 JG1DVY 小池、7L1TTH 島村宛 住所は会員名簿でご確認ください

#メール・郵送共に、コールサイン・氏名を明記してください。匿名のご意見は受け付けません

#ご意見受付期間：2009年12月 試行運用開始後から、2010年1月末まで

各局 よろしくお願ひいたします

2010年1月のオンエアミーティング・ロールコールについて

オンエアミーティング担当幹事

来年度のオンエアミーティング、ロールコールは以下の通り実施いたします

- 2010年1月2日(土) オンエアミーティング 430MHz帯(通常通り)
- 3日(日) オンエアミーティング 430MHz帯(ロールコールは10日に移動)
- 9日(土) オンエアミーティング 430MHz帯(通常通り)
- 10日(日) **ロールコール 430MHz帯(オンエアミーティング 144MHz帯は中止)**
- 16日(土) オンエアミーティング 430MHz帯(通常通り)
- 17日(日) オンエアミーティング 430MHz帯(通常通り)
- 23日(土) オンエアミーティング 430MHz帯(通常通り)
- 24日(日) オンエアミーティング 144MHz帯(通常通り)

以降は予定通りです

事務局からのお知らせ

局免許の更新情報についてお知らせします。ここ半年以内に無線局免許の有効期限が切れる局は(平成22年5月末まで)次の通りですから忘れないで手続きをお願いします。

JN1NPD JR1EXL JA1OQX JJ1YNA 7K1EYD

また、局免許を更新された際は、新免許の写しを事務局宛にご返送ください。

写しの到着をもって更新の確認としています。写しを未提出の局は次の局です。至急送付願います。

平成21年11月2日現在

7M3OMF JO1END

事務局担当者 防災課 庄司

インフォメーション

- ・**会員情報** 新入会員がお仲間入りされます。

JG1GYF 坂入 勝正 (さかいり かつまさ) さん。貴重な南部地区の市内若松在住です。

説田会長より数ヶ月年上の方です。これで、現在までの会員数は 80 名となりました。

鎌ヶ谷市在住の JG1GPY 安倍 健さん、クラブへの入会です。CW講習会にも参加したいそうです。

- ・**訂正記事**

連絡会ニュース49号 第一回移動運用の参加局のコールサインにミスがありましたので訂正します。

参加局の訂正, 誤 JN3CVO 正 7M3CVO 誤 JG1FTN 正 JE1FTN,

- ・**その他**

JARLから 2010-2011 年版局名録の案内が来ました。割引価格で購入できますので、説田会長宛に申し込んでいただければ、手続きいただけます。

整理の都合上 12月5日までにメール/FAXでの申し込みをお願いします。

- ・ **2010年 船橋市防災フェアの日程**

防災フェアふなばし 2010 は 1 月 1 6 日 (土) 船橋市中央公民館で 10 時から開催予定です。

詳細がわかり次第ホームページ、オンエアミーティングにてお知らせしますので、スケジュール調整をお願いします。

- ・ **幹事会報告**

編集の都合で、最終ページに幹事会の議事録メモがあります。

編集後記

- ・ ついに連絡会ニュースは 50 号を迎えることができました。

創刊当時から関わられた OM のお方から記念のメッセージを頂き大変恐縮しています。

私は、ニュース第 9 号から第 31 号まで JK1PIK 村上さんと協力して編集していました。

以後は当局のみで編集を引き継いで、いつの間にか 50 号に達してしまいました。原稿の編集はワードを使っていますが、融通が利かないのではっきり言って面倒です。そのため、編集の時期に入ると danabook を持ち歩き、思いついた時にその場で少しずつ編集することになっています。効率は悪いですが、楽に作業するための工夫です。原稿が全て揃ってから一週間程度で編集を終えます。そして、今一度、原稿提出者へ内容の確認、最後は、説田会長へ確認依頼。OK ならば、事務局の庄司さんへ送付します。問題なければ、発行の準備となりますが、確認作業の中で不具合が発生しますと、修正、再確認作業が入り、数日のロスタイムが発生します。

このような過程を経て皆様のご自宅へ郵送されます。紙面からは、編集の裏側が見えませんが、少しでもご理解いただければと思い説明を加えました。

- ・ 先日の移動運用のときに、前日までは正常だったはずの FT-817 が故障しました。三回目の故障です。最悪にも、430MHz FM で送信すると、電源が落ちます。他のモード、他のバンドは全て正常に使えるというおかしな現象です。当面は、予備機での運用となります。ご迷惑おかけしますが、ご理解ください。

発行 船橋市アマチュア無線非常通信連絡会 船橋市アマチュア無線クラブ 担当 JS1IWA

2009年10月25日幹事会議事メモ

出席者 7L1TTH JA1VRZ JA1XQC JG1DVY JH1MQC JS1IWA JJ1GRK JA6AZE

欠席者 JA1QC JA1TRM JH1GEN JH1TVY 記録 JA6AZE

10月25日 16時～18時30分 飯山満公民館第一集会室

1. クラブ局リグについて

現在のクラブ局免許は工事設計書などが無く、局免とリグの整合性が確認出来ない。

そこで、クラブの財産である倉庫(市役所屋上)の在庫を確認し、免許に使用できるリグが有るかどうかなを確認する事となった。(担当 JH1MQC / JA6AZE)

確認の後、使用できるリグが無い場合はJA6AZEがUVのモービル機とアップバーター、7L1TTHがHFのリグを提供する用意が有ると表明。なお、倉庫の在庫は棚卸の結果によっては廃棄できる物は廃棄、販売できる物はネットで会員を優先して販売する。

2. 規約改定プロジェクト・チームについて

活動を休止していたので、再度メンバーを確認。JA6AZE JH1MQC JJ1GRKの3名で素案をまとめ、2月の幹事会で審議し、総会に諮る事とした。

3. クラブ局のウェブサイト(ホームページ)について

当クラブのウェブサイトは会員のためのみに限らず、全国の防災関連の局から注目を浴びている。

そこで、継続して運用して行きたいが、前回の轍を踏まないためにも担当の負担を軽くしたい。

A) 個人のPCに相乗りの状況は好ましくない。但し、専用のPCを設備すると専用の事務所が無いので、個人に設置場所の負担が掛かる。

B) 専用のドメインを確保すると安心して使えるドメインは年間2～4万円程度の費用が発生する。

この費用負担は現状では難しい。例えば、クラブの行事などで参加費に上乗せして徴収、または、会合の折に寄付を募るなどの案があるが、更に検討を重ねたい。

4. ネットワーク構築テストに代わる企画案について

会長が助言を求め、JA1BWA高橋顧問から提案の有った「ネットワーク構築テストに代わる企画案」について検討。ある日突然のテストに会員はもとより、市の体制も対応が取れるとは思えない。実現の可能性が無く問題点も多いので断念した。

5. オンエアミーティングの運用方法の変更について

7L1TTH島村さんより提案があり、運用周波数帯に144MHzを加える事とした。例えば、第2・第4の日曜日は144MHz帯で運用するなど。11月から告知を始め、12月～1月で試用し1月末に意見を収集し、2月頃に採用するかどうか決定する。

6. CW講習会の担当について

CW講習会の幹事が未定なので選定することになり、JA6AZEが担当幹事となった。

なお、講師は会長が依頼し実施する方向とした。

7. ホームページへの情報の掲示について

ウェブサイトへの記載は行事担当幹事からウェブサイト担当幹事に依頼し、会長(又は副会長)が最終的に掲載を判断することになった。なお、幹事を会長が兼務している場合は会長が全般的な判断をして、掲載を依頼することとした。

以上